

# 平成25年度病虫害発生予報第2号

平成25年5月1日  
愛知県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の本ぼでの発生量は平年並	±
	イネミズズウムシ	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない	—
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	4月下旬まで調査ほ場では発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並	全域	4月下旬まで調査ほ場では発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並	± ±

### ・留意事項

コムギは赤かび病の防除適期を迎えています。本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考に防除を実施してください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	3月の越冬罹病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	3月上旬の発生量はやや少ない 5月の気温は平年並	— ±
ナシ	黒星病	<b>多い</b>	全域	4月上旬の花そう基部の発病率は高い 4月下旬の発病葉率は高い 5月の降水量は平年並	+
	アブラムシ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は平年並	± ±
モモ	黒星病	<b>やや多い</b>	全域	4月下旬の発病枝率はやや高い 5月の降水量は平年並	+
	せん孔細菌病	<b>やや多い</b>	全域	4月下旬の発病枝率はやや高い 5月の降水量は平年並	+
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	4月下旬、調査ほ場では発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並	± ±
	べと病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並	— ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	越冬成虫密度は低い	—

### ・防除対策

#### [ナシ・黒星病]

ナシ黒星病は、一部のほ場ですでに葉での発生を確認しています。また、果そう基部での発生が多いほ場がありました。発病葉及び発病果は見つけ次第取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。防除対策の詳細は、4月16日発表の「平成25年度発生予察注意報第1号」を参照してください。

#### [モモ・黒星病]

枝病斑は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。チオノックフロアブルやオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

### 〔モモ・せん孔細菌病〕

枝病斑は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。バリダシン液剤5やスターナ水和剤などで防除を徹底しましょう。

#### ・留意事項

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺ピーク時期は、平年より10日程度早まっています。越冬世代成虫がウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除時期は、有効積算温度から計算すると昨年より2～5日早いと予測されます。防除適期を逃さないように注意しましょう。詳細は、本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ブドウベと病は、一旦発生した後は降水量が多いと発生量が多くなります。県内ではストロビルリン系薬剤の耐性菌の発生が確認されており、現在は感受性菌と耐性菌が混在している状況です。今以上に耐性菌の比率を高めないために、この系統の薬剤をべと病防除に使用することは控えましょう。

## 野菜

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや多い	尾張	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並	±
トマト (施設)	黄化葉巻病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	全域	4月下旬の発生量は多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±

#### ・防除対策

##### 〔タマネギ・べと病〕

降雨で発生量が増加します。降雨前の予防散布を徹底しましょう。薬剤の散布は収穫前日数に注意し、ランマンフロアブルやフェスティバルC水和剤などで防除しましょう。

罹病株及び被害残さは次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

##### 〔ナス（施設）・ハダニ類〕

マイトコーネフロアブルやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。

##### 〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブルやカスケード乳剤などで防除しましょう。

・留意事項

果菜類で天敵および訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの薬剤の影響に注意して農薬を選定してください。

栽培後半に入り、キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病(MYSV)、トマトではタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病(TYLCV)が多発しているほ場がみられます。発生ほ場では次作への病害の伝染を防ぎましょう。栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	平年並	全域	黄色水盤トラップにおける誘殺数は平年並 5月の気温は平年並	± ±

・留意事項

キク(露地)では、親株床で白さび病の発生がみられています。白さび病は、気温の上昇と降雨に伴い発生しやすくなります。多発すると防除が難しくなるため、親株床からの別系統の農薬のローテーション散布に努めましょう。さらに、発生拡大を防ぐため、罹病葉の早期除去に努めましょう。

そのほか、今後はハダニ類、ミナミキイロアザミウマの増加する時期になります。親株床も含めて防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台4月26日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目(4月27日～5月3日)は低い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 40% 平年並 : 40% 高い : 20%  
 〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%  
 〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。